

科目名	家庭総合		履修学年	第2学年	
			履修形態	必修	
			履修単位	2単位	
使用教科書 (出版社)	新家庭総合 主体的に人生をつくる (大修館書店)				
使用教材 (出版社)	生活学Navi 資料+成分表 2017 (実教出版)				
学習の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>生きていく上で必要な生活の実践力を身に付ける。</li> <li>高齢社会、保育、共生社会、食生活、生活デザインに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。</li> <li>家庭や地域の生活課題を主体的に解決する能力と実践的な態度を身に付ける。</li> </ul>					
教科担当者から					
<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活と密接した内容を学習します。</li> <li>授業で行う実習だけでは生活に関する技術は身に付きづらいので、授業で学習したことを家庭でも繰り返し実践すること。</li> <li>定期考査(4回)の他に、提出物(期限厳守)や授業態度等の評価も高いので、毎回のプリント提出や小テストなど意欲的に取り組むこと。</li> <li>授業中に積極的に発言し、板書をノートにきれいに記入すること。</li> <li>プリントには自分の考えを問う事項もあるので、自分の意見を具体的に書くこと。</li> </ul>					
評価の観点・方法・割合					
観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活を振り返りながら授業に参加しているか。</li> <li>板書をノートに写す、授業中の発言などを積極的にやっているか。</li> <li>グループワークに積極的に参加しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域の生活に関心を持ち、生活問題について考え、解決に向けて取り組んでいるか。</li> <li>自分の考えを文章で表現したり言葉で表現することができるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習において基礎的・基本的な技術を身に付けることができたか。</li> <li>指定された作品を丁寧にきれいに作ることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学んだ内容を理解し、知識として定着されているか。</li> <li>家庭生活を築いていく上で必要な基本的な知識や技術、マナーなどを理解しているか。</li> </ul>	
方法	※ ◎は観点の中でより重視するところです。				
学習状況の観察	◎				
実習の取り組み	○		◎		
グループワークへの取り組み	◎	○			
提出物		◎	◎	○	
定期考査		○	○	◎	
割合	15%	15%	10%	60%	
評価の基準 ※ 満点を100点としたとき					
5	4	3	2	1	
100～85点程度	84点～70点程度	69点～50点程度	49点～30点程度	30点未満	

学習内容		評価の観点				時間			
学期	月	単元名/学習内容	学習のねらい	関	思		技	知	
前期	4	家庭科を学ぶにあたって 第7章 生涯の健康を見通した食生活をつくろう 1 食生活の成り立ち 2 栄養と食品	○学習の意義を理解し、目的意識をもつ。 ○食生活の文化の成り立ちを知り、その変化の過程と現代の食生活との関係を知る。 ○現代の食生活の問題点について、生徒各自の現在の食生活を点検し、問題点を把握して、自らの食生活を改善する方法を考える。 ○健康な食生活を送るには、どのような栄養素をどれくらい摂れば良いのかを理解する。 ○各栄養素の種類と働きを理解し、食品を組み合わせて摂る大切さを考える。 ○食品の適切な保存方法を知り、利用できるようにする。	○	○	○	○	1 28	
	5	3 安全で環境に配慮した食生活 前期中間考査 ＜言語活動＞グループワーク① 4 食の文化を考えよう 5 健康につながる食事計画	○食環境をめぐる問題や安全確保のしくみについて考える。 ○食品の栄養的特質と調理性を理解し、食生活に生かせるようにする。 ○調理の種類と特徴について理解する。	○	○	○	○		
	6	6 調理の基本を学ぼう ＜調理実習＞ 第3章 子どもと子育てについて知ろう 1 子どもの誕生 2 子どもの成長・発達 ＜言語活動＞グループワーク② 3 子どもの生活と保育 前期期末考査	○調理を科学的に理解する態度を養い、食品の特質を生かして、美味しく調理できる技術を身に付ける。 ○現在の食生活の現状を理解し、どのようにすればより健康的な食生活が送れるのか、個々の家庭から考える。	○	○	○	○	17	
	9	4 子育てと子どもが育つ環境	○人間は成長・発達していく存在であることを知る。 ○発達段階ごとの成長・発達の特徴を理解する。 ○子どもにとって生活習慣を身に付けることの重要性を知り、家族の果たす役割を理解する。 ○遊びの意義を理解し、児童文化についての関心を持つ。	○	○	○	○		
	10		○子どもの健康と安全について理解する。 ○子どもの人間形成のために必要な親の役割と責任を学ぶ。 ○子育て支援のニーズとその社会的支援の重要性を理解する。	○	○	○	○		
	11	第4章 高齢者の生活と福祉について考えよう 1 高齢期という時期	○人間の発達の完成期である高齢期や高齢者へ関心をもつ。 ○高齢者の心身の特徴と生活を知り、生活課題を理解する。	○	○	○	○	10	
	12	2 高齢期の生活と課題 3 高齢期の生活を支える高齢者福祉 4 高齢社会の現状と課題	○児童福祉法や子どもの権利条約の理念を知り、子どもも大人と同様に一人の人間として人権を持っていることを理解する。 ○高齢期を豊かに過ごすために、世代間交流の役割が大きいことを理解する。 ○高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにするために、家族や地域が果たす役割について考える。	○	○	○	○		
	後期	1	第5章 共生社会をつくろう 1 ともに生き、ともに自立する 2 生活と社会のセーフティネットワーク	○ノーマライゼーションの考え方に基づいた福祉の在り方やボランティア活動に関心をもつ。 ○自分の関心や能力に合った地域活動に参加して、共生社会の一員としての役割や生き方について考える。	○	○	○	○	4
			第11章 生活をデザインしよう 1 ライフプランを考えよう 学年末考査 2 問題を解決してよりよい生活をつくろう	○自分の夢や希望を実現するための職業生活・経済生活について、多角的に考える力を養う。 ○これまでの学習を踏まえ、長期的な生活設計を立案する際の課題を知り、実際に立案することができるようになる。	○	○	○	○	10
		3	＜言語活動＞調べ学習・PP作成・発表						
									70